

匿名データ共通課題検討ワーキンググループ（第1回） 議事概要

1 日 時 令和元年11月27日（水） 13:30～14:30

2 場 所 総務省第2庁舎7階小会議室

3 出席者

【構成員】

中央大学経済学部教授	伊藤 伸介
(一社)新情報センター会長	美添 泰人

【事務局】

統計研究研修所次長
統計研究研修所新規情報活用技術研究官
統計研究研修所統計技術向上支援課
政策統括官（統計基準担当）室高度利用担当

4 議題

- (1) 国勢調査の匿名データの有用性の検討について
- (2) その他

5 議事概要

(1) 国勢調査の匿名データの「有用性に関する情報」の提供について

事務局より提供案が示され審議を行った。以下、主な意見。

- ・ 地域を絞って指標を提供することについては賛成。結果を見ながら代表的と思われる地域について提供すればよい。
- ・ 居住期間等、男女別にクロスを取る意味があまりない変数については、男女別に必要はないと思う。男女で分けてしまうことにより匿名データが本体調査からより乖離しているように見えてしまう恐れがある。
- ・ 調査結果と乖離の大きな地域について提供するとのことだが、乖離の大小の定義が難しい。何らかの距離関数を用いて乖離の大小を定義できないか。年齢5歳階級のよように累積分布に意味がある変数であればコルモゴロフ＝スミルノフ検定統計量、質的変数のクロス表であればカイ二乗検定量などが考えられる。
有用なご指摘。検討する。
- ・ 乖離の大きな地域だけ提供すると、有用性が低いと誤解される恐れがある。距離関数を用いて全県で計算し、その分布表を作れば全体の乖離状況が分かる。

以 上